

繪本豐臣勲功記

五編

六





繪本豊臣勲功記五編卷之六

目録

福鴻小西使日廻城惑敵

属 城中發動

秀吉悟霖雨水攻高松城

属 三家援兵

繪本豊臣勲功記五編卷之六

桂氏部智勇抗生石謀叛

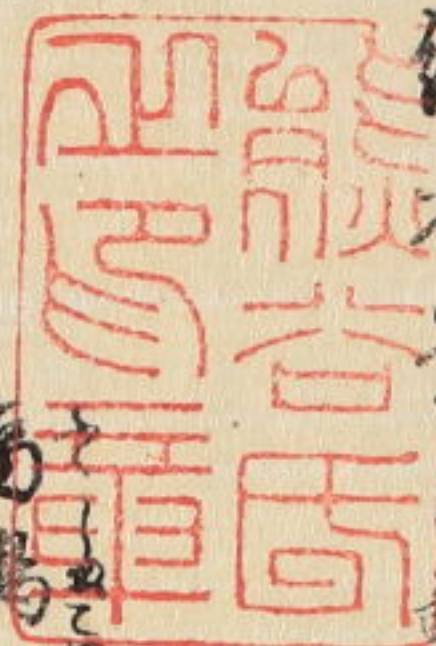
属 安土乞部

先秀再孫若遂結謀叛根

属 蘭丸産起



繪本豊臣勲功記五編卷之六



江戸 八功舎 徳水刪補

福嶋小西使日細城感敵属城中騒動

王父度年既小十六に及りぬきとも。又猶勝小一とこれを托く外目小者
かバ愚小似たまこと。親子の真情これなりぬ。羨小哀なる親子あり。并
も遠日細の一城八日細六幕を勝季則也大将之。上系右衛門右史元助を
副將とし。竹舟惣左衛門の城先桂源左衛門兼攻侮加番たり。其勢一子五百餘
人より軍城走中。小日細季則ハ大カ猛勇なる代を。自己に猛りて副將
上系元助を教も。平生の奉止不禮の事以多有り。されば元助頓て不仕
を合あり。然る小羽は若秀存ハ去士を勞せ。三城を攻備。心相小向と人と議
一。いり多。當城ハ別々地の裡より。力戦も。益。間者。

豊臣の城の
中への
移り
に
在

て秋中の曉曉を精しく寝るに果日かく間者走帰る。潜ふ若て重く
る中より日相の城中相通に勇を事い威を競ふ中より日相李則の暴勇にれ
とも智謀陰く。竹井成光の孫激ふて慈ふ慮る。桂葉政の智勇あきと
も小勇なるゆゑ日相侮らきを用ゆる事なく。只上京元助のそ。天野元政の妹
奪にして隆景元春と親した孫頼由志。城兵多く軍を教ふ。これかゝるふ城
中今より平らなるべ別く竹井が輝ふおひつゝ。三百者を領する身にて
日相のを色に妻とおひき婦人あり。既ふ二個の男児を備けく。母子齊
一に健ふれどもいゆるる茶業阿のそとや。雙子中て生色かめり此盲目
かれ。城中の面茶取く。城外に棲せく養育に成長して此年十八
歳なりなれば座頭の道せり。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
那なりといふも。又忠左衛門固窮るまは。官の身より今に弄置いこ。

精しく言状を。なるに。秀若湯と聆る。まがその盲人を石倚人と人
を。んく招るるが。渠彼兄弟舟一ふ秀若が陣中に投る。のぞきに伝
せく。琴一曲を弾吟し。るが。韻聲に技を。つが。紫の塵をも動とを
り。絶妙ふこを听え。これ。秀若殊小。秀若の神ふて。金銀鞍。種
種飲食して命せ。る中。汝們兄弟朝夕と。遠陣中に為りて我を慰
め。うしむ。糸一伴ひ。檢校ふ。これ。人。を。と。重。さ。る。兄。弟。做。り
雀。遊。ぶ。る。ま。を。う。ち。執。び。怖。く。六。仁。情。を。め。ぐ。ま。せ。自。と。善。く。し。て。其。日。ハ
日。か。家。に。立。帰。里。母。と。も。あ。ま。く。高。嶺。つ。これ。ら。此。刻。折。簡。ふ。記。書。又
忠。左。衛。門。に。告。う。り。る。竹。井。成。光。書。翰。を。視。て。心。中。大。小。う。ち。強。き。備。へ。秀
若。渠。兄。弟。を。我。兄。と。知。り。て。形。か。せ。う。智。謀。精。進。一。羽。は。葉。か。料理。竹
井。を。降。参。さ。せ。ん。といふ。儲。意。かりぬ。を。い。か。せ。ん。と。左。頭。右。頭。沈。吟



秀吉日畑の城を
 攻るに臨みて
 竹井が二盲
 児を熟馴る



此胸も頭も分如く更に心を決せりけり。然れども筑前守は二箇の盲児
 を日夜小熟意日相上系が事を務く聆せし。自軍の兵士を擧げしる
 方。落城させんとす。まづ福清をかく呼寄せ汝を當城へ使者た
 らしめん。小親庵を慎之。勇言を以て。吾謀計を用ゆべし。と次小西小介
 なる中。汝市松小伴ふれり。日相小趣き。那般に料理下努く意を
 かくばと。秘詞を密に口受かへ。是ハ西人慎人小親兼か。脱進せし出
 けり。斯ともかくは城中に軍旗まわく。あるとす。海へ福島市松小西
 九郎。甲冑あはぬ。禮服をく。城外へ出たり。是ハ羽柴筑前守か。使者
 なるが。城を日相季則小。對面の。あ推察せりと。消息を。城守門の兵士
 本丸小若達。日相季則使者を。仰地小呼寄。々々。福清ハ突と。本丸小
 通り。小西ハ二の丸に通りたる。季則も。から。意趣ありと。福清を書院へ

通し。日相季則。植兼政市松を出迎へ。本座に着て。福清を向ひ。使者の赴け
 たる。ぬらり。と。海に。れ。も。ま。方。さ。る。深。く。人。所。酒。也。秋。ま。い。く。を。海。と。
 何か。使者。汝。取。し。めん。と。福。清。を。准。備。や。あ。り。たる。人。大。益。に。膜。膜。と。り。漆。漆。と。く
 齋。出。たり。季。則。毒。味。し。ま。い。と。人。と。一。盃。乾。し。て。秋。々。り。少。を。市。松。正。則。個。子。廻
 息。も。次。び。飲。盡。て。い。ま。一。盃。と。重。杯。り。たる。日。相。季。則。先。や。り。物。せん。と。大。碟。子
 此。を。より。紀。出。と。人。と。是。諸。の。後。是。あり。新。の。禁。し。き。所。備。上。上。方。意。は。は。は。は。
 する者。の。帝。城。を。徹。す。の。思。は。河。れ。は。食。せ。し。傳。も。あ。り。し。が。遠。慮。を。い。遠。都。の
 地。か。れ。は。禪。と。と。為。も。た。れ。の。と。か。は。二。濕。の。毒。を。も。拵。も。ん。ど。と。戒。刀。を。取。て。屠
 録。台。響。か。し。て。喫。了。了。里。骨。の。を。残。し。て。並。れ。の。人。大。小。威。驚。り。市。松。捧。て
 を。思。は。たる。既。小。盃。盃。わ。り。た。れ。は。福。清。威。儀。を。整。し。き。り。日。相。桂。に。對。て
 曰。遠。慮。主人。筑。前。守。當。國。一。獲。向。い。と。事。是。れ。の。趣。意。に。向。い。て。を。東。指。圖

勅^{しゆく}孔^{くわう}して干戈^{かんご}を止^とむ。使^しふや。あれによりて。天子^{てんし}も教^{しゆく}慮^{りょ}をやとんと
 痛^{いた}めらひの中^{なか}に將軍^{かうん}の命令^{めいれい}に背^{そむ}く。類^{るい}族^{ぞく}殊^{しゆ}ふ多く。中^{ちゆう}に精^{しやう}民^{めん}を困^{くわん}苦^くしむ。其^その
 りて右^う府^ふ信^{しん}長^{ちやう}公^{こう}。四^し海^{かい}を鎮^{ちん}め。天子^{てんし}拔^{はつ}補^ぼ佐^さ。右^う平^{へい}将^{しやう}軍^{ぐん}を遣^{せん}はつ。天子^{てんし}之^{これ}を
 伐^{はつ}頃^{かう}を授^{しゆく}助^{しゆく}の。然^{しか}る。亦^{また}中國^{ちゆうごく}を利^りの。多^た勢^{せい}を頼^{たの}む。我^{われ}意^いに著^{しやく}し。謀^{ぼう}を
 を後^{あと}裁^{さい}。天子^{てんし}將^{しやう}軍^{ぐん}の法^{ほふ}令^{れい}を怒^{いか}む。合^あ戰^{せん}を挑^{てん}す。是^{これ}何^{なん}と。是^{これ}何^{なん}と。是^{これ}何^{なん}と。是^{これ}何^{なん}と。是^{これ}何^{なん}と。
 軍^{ぐん}の命^{めい}に背^{そむ}く。我^{われ}意^いを恣^しにする。西^{せい}國^{こく}を平^{へい}治^ちす。我^{われ}意^いを恣^しにする。西^{せい}國^{こく}を平^{へい}治^ちす。我^{われ}意^いを恣^しにする。
 一^{いつ}方^{ぱう}づつ。勇^{ゆう}を舍^す人^{じん}が言^{ごん}を巧^{かう}す。使^し者^{しやくしやく}の口^{くち}状^{じやう}を述^のす。徑^{かう}ふ。難^{なん}慮^{りょ}の季^き
 則^{すなは}ち中^{ちゆう}大^{たい}に睡^{すい}り。多^た由^{ゆう}忍^{にん}眼^{がん}を野^のてあり。ける。桂^{けい}葉^{えつ}改^{かひ}畫^がくも。其^{その}目^め淫^{げん}
 去^いつ。日^{にち}烟^{えん}を鎮^{ちん}。類^{るい}族^{ぞく}殊^{しゆ}ふ。俺^{われ}們^ら人^{じん}の命^{めい}も。日^{にち}烟^{えん}の城^{じやう}も。對^{たい}敵^{てき}守^{しゆ}守^{しゆ}。將^{しやう}
 軍^{ぐん}此^{こゝ}命^{めい}なり。今^{いま}下^{くだ}らぬ。其^{その}のうら。使^しして城^{じやう}を秋^{あき}方^{はう}へ。一^{いつ}處^とで。不^ふ相^{さう}

更^{さら}にか。驚^{おどろ}き歸^{かへ}りて。秀^{しゆ}長^{ちやう}に返^{かへ}答^{こた}を。智^ち術^{じゆつ}に七^{しち}。正^{せい}則^{すなは}ち。眼^{がん}を野^のて。其^{その}目^め淫^{げん}
 新^{しん}中^{ちゆう}で。秘^ひ藏^{ざう}子^し統^{とう}と。いども。天^{てん}命^{めい}を和^わす。是^{これ}非^ひなり。遠^{えん}上^{じやう}の合^あ戦^{せん}なり。其^{その}目^め淫^{げん}
 其^{その}胸^{むね}こを。今^{いま}日^{にち}の倉^{くら}好^{かう}に。我^{われ}汝^にを對^{たい}敵^{てき}に。と。結^{むす}度^た起^{おこ}て。融^{ゆう}く。其^{その}目^め淫^{げん}
 秦^{しん}にける。備^び亦^{また}小^{せう}西^{せい}孫^{そん}九^く帝^{てい}の。二^にの九^く陣^{ちん}新^{しん}不^ふ通^{つう}り。竹^{ちやく}并^{へい}想^{じやう}左^さ邊^{へん}不^ふ對^{たい}面^{めん}し
 て。密^{みつ}使^しの詞^{せき}を細^{さい}出^しる。以^もて。成^{じやう}光^{くわう}最^{さい}先^{せん}妻^{さい}を。新^{しん}子^し事^じを。若^{じやく}末^{まつ}り。
 いろまを。と意^いも使^し着^{ちやく}に。沈^{しん}今^{いま}に。悩^{なや}む。機^け會^{かい}なれ。近^{きん}士^しを遠^{えん}づけ。使^し者^{しやくしやく}
 を。何^{なん}事^じも。と。同^{どう}閑^{かん}なる。伐^{はつ}。小^{せう}西^{せい}河^か長^{ちやう}言^{ごん}を。和^わす。是^{これ}下^{くだ}に。新^{しん}子^し息^{せき}を。
 て。一^{いつ}人^{にん}秀^{しゆ}長^{ちやう}存^{ぞん}細^{さい}。知^ちしめさせられ。晝^{しゆく}夜^や終^{しゆう}下^{くだ}拍^{ぱく}。惠^ゑ中^{ちゆう}に。と。
 新^{しん}如^に。父^ふより。是^{これ}下^{くだ}にも。通^{つう}听^{てい}。誰^{たれ}心^{しん}何^{なん}。都^とへ。登^{のぼ}せ。檢^{けん}校^{かく}は。も。心^{しん}
 思^しひ。和^わす。賦^ふを。以^もて。荒^{かう}花^{かう}を。和^わす。量^{りやう}を。和^わす。和^わす。竹^{ちやく}并^{へい}が。心^{しん}
 中^{ちゆう}子^しの恩^{おん}愛^{あい}に。迷^{まよ}ひ。重^{ちゆう}し。出^し使^し者^{しやくしやく}の口^{くち}狀^{じやう}を。述^のす。終^{しゆう}小^{せう}又^{また}せ。け。要^{えい}

時ありていふ事も乃支那の初に取られ使節の口候を忘れたる遠道秀
 吉當地へ来り。斯に伐に及びぬ事。君命を重むる事なり。然りとて
 仁侯を先く。使車の損亡にたこと。誠専一と云。是中を備せし城は
 一。遠日初の一城に在り。雙方を事の料理こそ好す。くれ是下に其
 意のわく。ざるやと解着られ。想を待つ。息子が書面と小西が初符合せ
 一。由名世瑞ハ安達一。低頭てあり。る。願九帝願て齋米。黄金珠
 系を祀出。これハ秀吉朝夕に是下の子息に慰められ。背を消せ。謝
 として。是が小進。むる。と。る。り。所兼河。是と進れ。竹。舟。も。今。ま。で。ん
 決せ。彼。此。迷。ふ。と。在。る。が。これ。を。看。り。秋。心。發。起。一。且。ハ。我。子。の。電。に
 伴。され。此。贈。寶。を。受。納。せ。事。穩。に。る。る。な。り。料理。單。に。願。ひ。ま。つ。と。る。と。
 聆。て。詔。九。帝。做。裸。たり。と。愈。恩。愛。の。詞。を。法。く。し。巧。言。を。り。つ。く。ふ。し。ける。ふ

ど。竹。井。針。暗。と。る。夏。も。知。る。は。後。中。菴。中。で。終。交。一。つ。日。初。を。殿。て。降。参
 是。く。約。本。で。七。小。西。ふ。り。れ。舟。時。に。大。將。上。系。元。助。先。に。後。ハ。が。辨。に。到。り。今。日
 羽。柴。秀。吉。より。使。者。を。越。され。その。趣。所。聆。あ。る。や。と。訊。れ。元。助。は。何。も
 聆。及。び。ぬ。其。儀。不。純。く。是。下。と。も。密。禪。一。つ。た。事。を。お。是。今。秀。吉。に。軍
 威。を。ら。天。魔。も。降。る。は。相。を。不。増。て。信。長。下。向。せ。禪。じ。さ。大。事。如。來。と
 一。秀。吉。の。祝。と。ころ。最。も。道。理。に。協。す。れ。降。参。さ。る。不。如。庵。か。げ。と。
 聆。て。成。光。然。ら。び。發。く。若。候。が。歸。路。の。儀。を。り。て。羽。柴。が。辨。へ。密。通。せ。日。初。桂。の
 友人。ハ。平生。我。意。に。長。ト。る。こと。意。倍。な。れ。奴。候。を。殿。ご。方。洲。ハ。斯。く。如。く。に
 せん。之。願。を。魁。め。密。於。教。刻。不。覺。び。ける。が。潛。日。初。李。則。城。殺。害。ま。さ。る。准。海
 一。使。士。を。り。つ。日。初。が。辨。へ。當。遣。さ。る。主。家。より。急。用。を。細。末。さ。る。急。死
 未。應。あ。る。と。知。報。に。季。則。ハ。ふ。と。ふ。や。と。桂。兼。政。ハ。通。信。の。暇。を。一。支

人の伴奴を遣はし、上原が宅へ来たけり。日畑の詞の倣作を同人と言せし
 しく、祝いの胸と束服を晒らして、某方先刻款將より此來使を厚く款行
 て、賄給を受用通せり。所人ありて明白なり。檢使の乃支賂ゆるふに、所
 人通つたふ用て、登く切振つてさるべしといへども、果は心舟の詞を聆
 みのかる。野心の澄きく存トらきて、斯ハ東へ出らるやと、以て待たれ、竹
 井成光、虚くしき澄掃呼たり。何故あつて、款使を呼寄、款刻困結はあ
 りとも、其味を竭して款結まを是心く。款は通せり、澄掃ありと、其音
 聲に呼たりれば、季則大に激憤なり。是を六源に針跡あり。汝どこれ
 の知たるとるべし、際もあつてせむ、其方清つ、頼る准儀の襟底を統襟
 くつろけ、撃發せむ。了得に極さ、季則が、肋の極より肩尖へ水も滴
 らば、撃撥えれ。例もあつても、猛氣の日畑、左刀を脱人として、上原

虚際、其傍面吹着き、其慚や忠義の季則も、奸邪にたれ、不徒頑
 して、震しく、其名を埋りたり。この發動に、を士皆慌忙たり、に、食迄
 失て、他人へあり。是ふ上原が、内室ハ、天野元政の息女あり、其膽勇士に
 も、勝里あり。遠東西、栗小鷲を、洞の、一の、廳に、窺ひ、在るとも、秋
 毫、知らば、竹井成光、低音あり、腕法、日畑を、殺課せられ。このうへ、桂
 一個あり。先や、羽は、木へ、告知せん、と、祝筆を、さる、を、走書して、密書を、記書
 在りし、り。此と、出たる、と、原が、妻、襖子、の下、ふ、着いた、刀を、把て、擧
 げ、着せ、其、想、た、清つ、を、正、兩、小、韓、竹、の、傍、く、放、放、せ、と、原、大、小、鷲、懶、な、し
 斯ハ、何、事、を、と、刀、推、抜、内、室、持、たる、真、又、を、抛、弃、其、取、が、若、を、物、予、と
 壓へ、其、竹、清、り、栗、と、さ、一、言、あり、公、ハ、竹、井、が、意、事、に、前、撥、一、毛、利、家、の
 大、恩、忘、却、し、の、ひ、み、ふ、由、意、款、を、通、ト、ら、せ、ら、る、や、女、性、あり、といへども



上原元助が
妻義勝を
逼ると
竹井脩を
憤殺す



恩義の宵にまうまぬ。別く親しき身を持ち、不道に共する解罪ふハ
 後、切後一久。さうハが初筋のまゝと法氣も禰清くれ、と上京命
 や惜うけ人言をもつて起奉る儀。伏志の久と責蒐らま在吐うひて上京
 元助玄周のうへ逃出る。内室へ公儀使し。清る来條の支を置て恥病
 さんよりと刀推拏返蒐ゆく。出合頭にて本倉化門の辨り。目下伯父仇
 ひれば、終一ハせと設て蒐る儀。板拵て横うぬふ。素頼ころりと碩落上
 系へこれをも顔む。脚小信せき逃行し。退着て一聲うけ。恥を思ひ知り
 五へといひさぬ斬たる腰車に。轍ハ離まき二股に血潮起せ倒まき。機合
 子。桂源左衛門ハ巡檢に出たるが。最先撃たる。香鏡の音を怪しむ。上京
 が完一本蒐りて。今内室か夫を逃出破例せ。城を固小着うり。飛か如
 くに乞有り。内室を抱任。澆漢を問ふも息次あへ給べ。一言も言滑まは。

要時劫抱まらうち。漸く胸もあちわゆる由。忍竹歩此。悪逆。悪人の娘。赤子
 細小借りあうて。后。悪子に初擔まらうといふ。さういふも。妻の身うて。良人成
 手にけ。活永らふと。不嫁。使より。免期を畢たき。さうハが。送章を死
 骸に傍。本國へ送る。ゆゑと。何り。たれ。桂兼政大に。威下。大張る。清奉。山越。こ
 そある。と。清事。なれ。清る。業。勤。あり。し。この。款。陣。へ。聞。え。る。べ。速。地。推。進。来
 る。べ。我。一。人。の。力。を。り。つ。く。防。我。ま。ら。う。ま。ら。う。け。ま。び。乃。良。も。遠。を。退。城
 して。一。急。登。門。へ。立。歸。らん。静。に。清。准。儀。何。と。と。東。ま。ま。そ。内。室。も。洞。を
 蔵。し。筆。雄。と。く。送。書。して。襟。下。着。と。ふ。自。害。な。し。漢。死。を。遂。う。る。所。地
 ハ。有。保。に。天。野。元。政。の。娘。り。と。と。衆。人。奉。て。威。嘆。し。たり。桂。源。左。衛。門。兼。政
 ハ。内。室。の。死。後。を。あ。ち。わ。く。葬。送。諸。年。を。次。身。に。退。ぞ。せ。自。身。ハ。志。づ。か。り
 距。後。して。豊。州。當。て。七。率。退。く。秀。右。八。日。に。初。に。同。者。を。言。城。中。の。蹠

加陽郡の
北にあり
の南にあり
の東にあり
の西にあり
の南にあり
の北にあり
の東にあり
の西にあり

漢を窺せしむ。これらの事を快う知る。自方の揚兵桂を遣ふ。返す
せんと喉を制止し。陣軍に返さる。故洛城もある。弱に就く。段
とをなれ。まが城中の政事をなす。橘も諸軍を進ませ。高松の城を改
簡さんと龍王山小礮崎を。四色の地理を仔細に量定せしむ。り
秀吉信濃水改高松城。属三家援兵
春の甲子に。西の村に赤地千里夏の甲子に。雨ふる時。舟に乘り。市に入り。
秋の甲子に。西の村に赤地千里夏の甲子に。雨ふる時。舟に乘り。市に入り。
と謂ふ。信濃の言。秀吉解も是を欲て。遠地の事。測量らん。然れど。小礮崎
龍王山小礮崎。西の村に赤地千里夏の甲子に。雨ふる時。舟に乘り。市に入り。
小礮崎に立りありて。深田池塘四面を繞り。面門の道。はらう。小礮崎を通る
れ。最も窄き。往來あり。秀吉熟くこれを視。遠城郭に推進せしむ。

尋常の軍をか。兵士の疲勞を。増し。し。改簡す。こ。容易かつ。まじ
地の理を察して。謀る。水改に。水利ある。か。と。諸將。陣を。龍王山
の南平山。龍王山。谷中。其外。之。村。是。は。備。本。陣。を。龍王山。小礮
崎。居。た。ら。う。板倉。が。家。も。降。参。し。る。難。人。使。車。一。十。餘。人。小。礮。崎。を
村の百姓。車。一。十。餘。人。を。駈。集。め。晝。夜。を。分。さ。げ。山。野。を。穿。ら。せ。し。其。負。か。し
七。救。百。万。餘。の。砂。囊。を。積。小。礮。崎。に。置。き。て。後。は。工。匠。の。棟。梁。津。路。丈。八。丈。門。板。を。備
つ。と。し。り。の。ほ。り。丹。波。家。の。扶。持。人。な。れ。ば。秀。吉。軍。隊。を。招。き。遠。遭。る。松。城
攻。ん。と。し。り。水。を。と。り。臨。さん。と。し。り。既。先。達。て。その。准。備。を。一。間。敷。を。も。よ。く
歩。軍。か。さ。し。り。汝。們。吾。人。去。説。を。棄。て。その。條。三。降。参。せ。り。地。改。の。名。下
を。奉。還。せ。し。り。命。を。汝。等。人。領。受。か。し。この。致。因。小。礮。崎。基。内。を。當。割。ら
る。頃。八。月。の。初。め。に。昨日。甲。子。の。日。なり。る。が。為。す。日。を。謹。む。る。由。也。定。



筑前守
 大石量時
 高松の
 城を
 水攻
 せん
 とす



一里下の
大木の下
村のなか
のなか
まき

めて霖雨多し人と愕り遠攻企せたりしハ為常なりぬ謀士なり諸
秀台人扶の車を夜ふ日依傍てい七がせたる由名月をり不威統せり
遠入之堤の結核ハ高サ二間根張十二間上段六間總長サ一里寸餘
概せうち之堤を根蛇をせり柵を修め砂囊れ多し七百五十九万
七百五十根と積せり。之堤のうらふ新小居を掃了を諸の商人を
以集えむく賣買のこと成辨さる最大融れんせうけたり。城中より
此体を見て掌を拍ふひに嘆歎の討略を奏する不常城をり水攻
せん攻企せらんがれ量の事をし做出人と言武士の所居さよと潮弄
することありしころば秀台の日に巡検せしが之堤に千本の櫓成たる
を見く時分はうと。傾てより長良大舟の門合小橋をり砂囊を積
り水を堰止置たる河岸を救丈一度に切崩せを遠水溢入るとも一里半

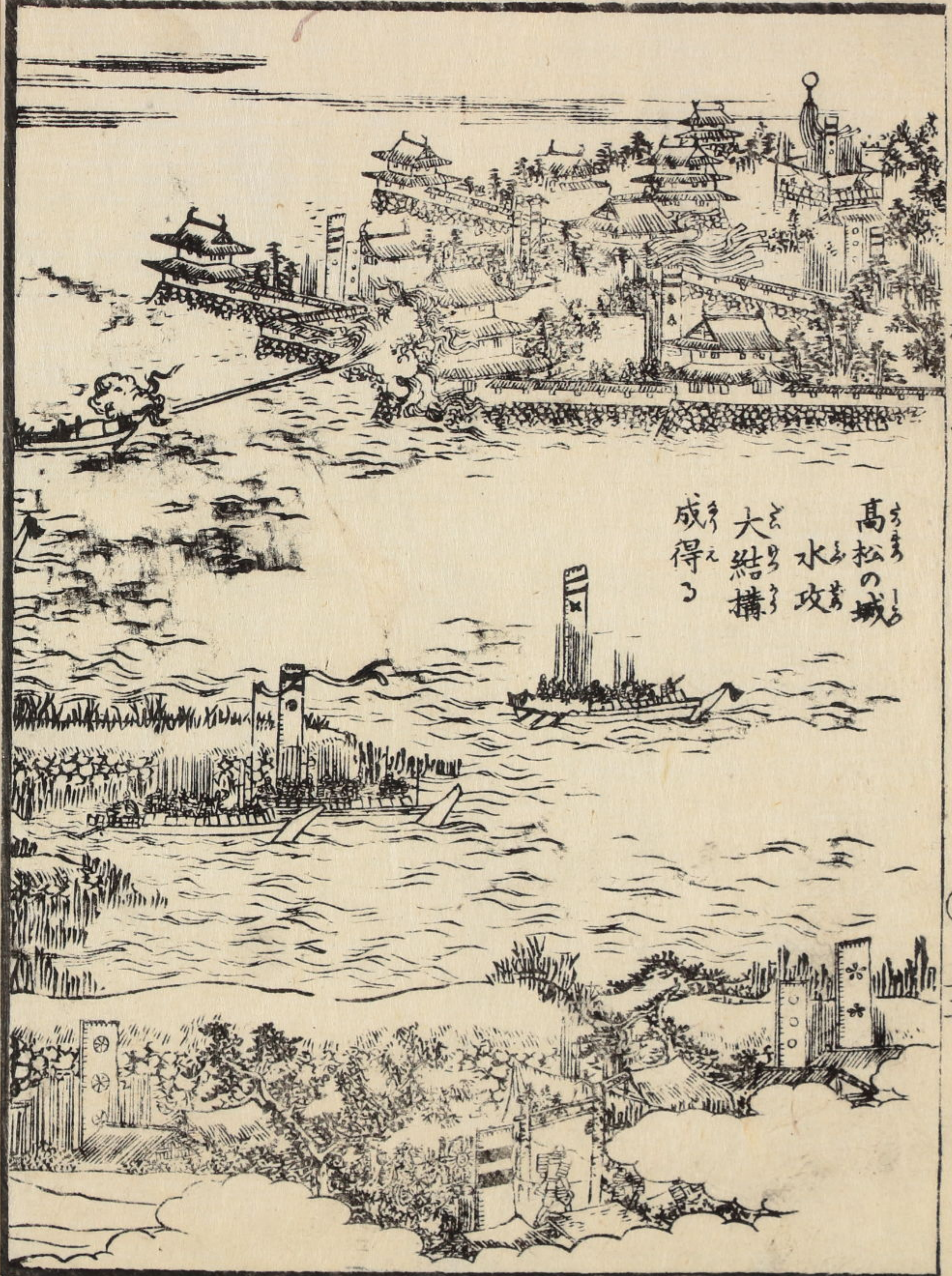
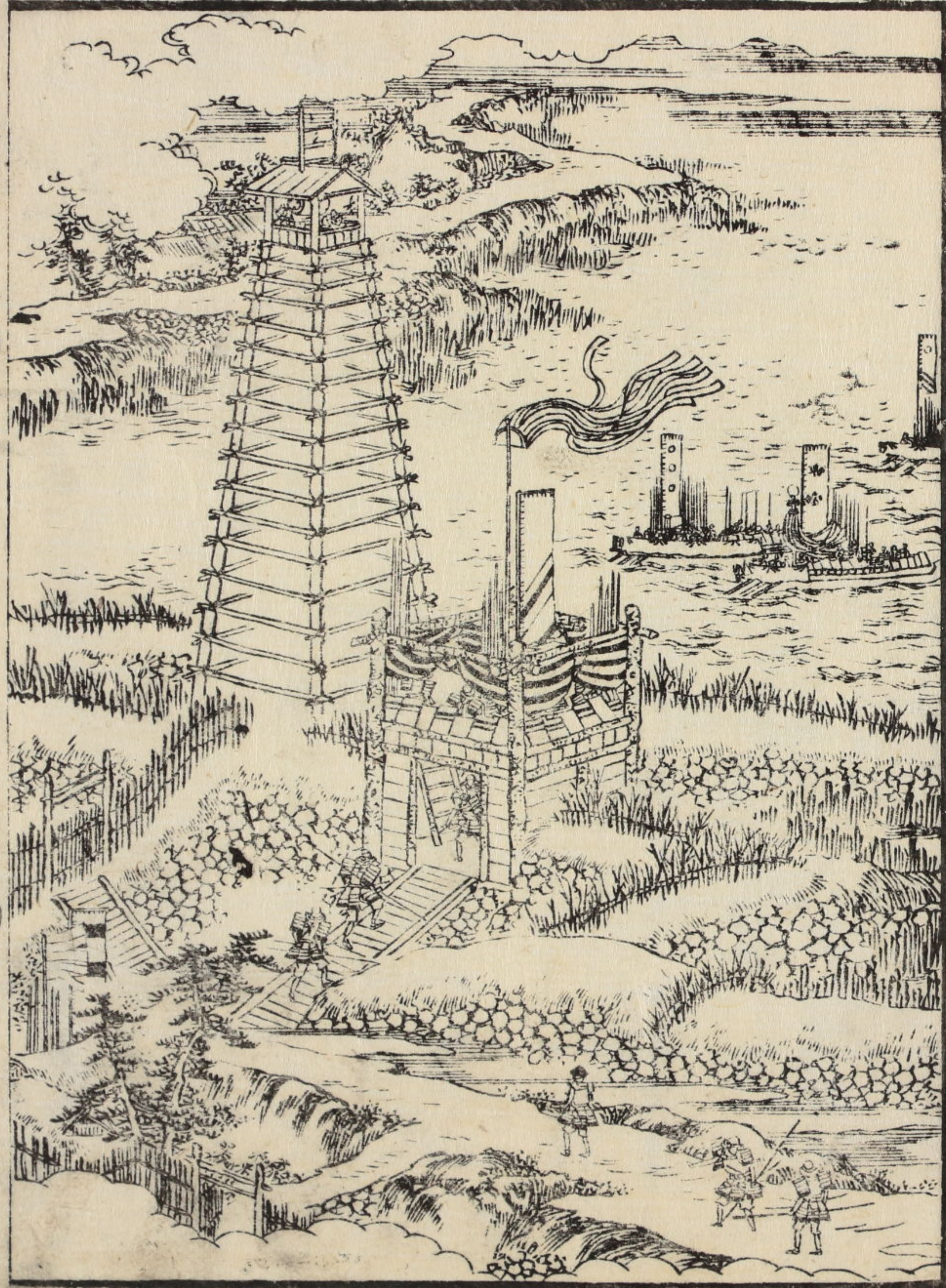
餘の之堤のうら水ぬれとてぬせもあつて高松の城を浸きつゝ急色ハ久
足えざるゆゑ城兵中へ朝美ひ呼あしり見戲のつて泣く及子もみや
と号稱り因討せたる秀吉が大謀言後をり論をくび然る不軍
安用と軍もみさび日を送るも。六月央せりるが。及一滴も踏ざりし六月
の備は士心を息あいのせんとかり不機合う。十六日の夜ふ入く入由星夜
初めし天宮に併て光輝く。左に翼星口方ふりれ。大星昂の二星星少
陽にありて其光最強く。是正しく霖雨の氣あり。翌十七日の半刻より
夏降出まると宛瓶水を傾くるが傳く。片時も小休ひらうたり。然るも
高松の城をといふ清水長左衛門宗治同月清入道見たり。難波
傳を清原を副將とす。檢使ハ近松左衛門尉家國そのや中活大
炊助。片山助を清林之布左衛門長治元之丞河合ハ志本の一統を人。其

豊臣記五編卷之二

七

勢み子有餘人。鐵石の像く率城しつる。要處を雙の傍地といひおぼへ
 智勇拔群なれば。秀長の大軍を肩ともせし。去堤を築く。城初より
 潮若くあり。つるが。又月雨頻に降灌さ。次第に洪水となり。今早
 己に城門を水漲て落入れ。城將大少力を損し。諸卒に命じて防がせけ
 ども。寸隙分れも許さずして。低き家屋の床を浸し。次第に増して。撥ふ
 多し。人となり。つるが。諸卒士方僅にたぬり。寨樓に登り。樹木枝を
 括着て。着居て。篇布。果蓐を重ね。おのがまふく。家財を運び。栖居を競
 争ふ。あつ。鳥渡の夕天。子流が如く。難卒軍の所在に迷ひ。那遠に遊ぶ
 遠道は漂泊。ぬに若く水小悩む。捨にや。盧照鄰が紙小のる。千里烟子埋
 百層濼。雨。小涵を。青苔壁を被り。綠萍道に生むといふ。秋霖の句を
 新やわく人と。哀嘆の。つるが。尺も水。水。水。城中都て。浮萍の。人

と大將も。今更子。安さ。おのり。つるが。蛙々鼻ふ。羽。羽。秀長。洪水を見
 警して。城兵。金。難危に及ぶ。ま。ま。勝利の時。諸陣。一。向。よ。と
 命と。つるが。侍。被け。つるが。野。野。決。決。賀。賀。田。の。之。得。之。彼。の。小。舟。小。舟。を。指
 揮を。諸。方。へ。傳。人。つるが。つるが。快。快。と。遅。遅。と。諸。勇。士。達。つるが。ま。も。准。備。お。か
 つるが。大。船。様。に。跳。入。つるが。つるが。大。石。砲。小。金。砲。艦。先。に。橋。へ。樽。柏。子。を。け。く。ま。ま
 費し。城。側。隙。を。く。つるが。つるが。小。舟。に。ま。た。る。魁。軍。の。諸。卒。們。然。把。推。拉。身
 撞。つるが。大。將。秀。長。後。陣。お。あ。つ。て。暗。号。の。大。旗。お。つるが。つるが。け。け。は。は。城。の。四。方。を。推
 捕。つるが。つるが。紅。上。の。大。砲。小。砲。喊。の。聲。と。齊。一。小。礼。費。し。つるが。つるが。石。見。ハ。爆。く。磅。と
 轟。轟。轟。轟。万。雷。雲。を。送。り。て。暴。風。地。面。を。廻。る。如。く。天。地。も。混。乱。して。視。分。ら。ぬ
 遠。圍。に。ま。ま。と。魁。隊。の。諸。卒。も。つるが。つるが。然。把。推。拉。勢。お。つるが。つるが。破。く
 人。と。城。中。より。も。つるが。つるが。と。槍。薙。刀。お。つるが。つるが。拵。ま。つるが。つるが。死。を。願。は。防。我。し。や。れ



高松の城
水攻
大結構
成得

ハ容易破滅することありき。右に當日も晴天に到り、隈々ありに候。此れ
選標吹て錯勢を纏め、取摺連てを懸き、城中に毛虎口を適き、終只候
若を療めくもの。清水兄弟、難波を相解、高城をとりて亦恭び、毛利三家一
救を乞ふんと。水練の武士を擇み出し、美州へ危急を告たりたる。荒原吉の
備兵士の、残勞を切ら、聖日同者をほり、毛利の統謀を祈む
るに、日之家大軍を率し、援兵として来り、若くは所て諸將に之らく
中國名家の毛利、兩川、接を定めて大軍あり、それとも亦亦と、持
き人、美州加勢の壓兵として、合身秀長を大將と、備前勢に股肱の
と、一万余人を當副出張に、む然り、松の使者、夜に日次で
安藝に到り、城中殆危急のしを、毛利三家へ副達し、これバ、右川、元長、小
早川、隆景の、右大將、雲伯石の、諸軍を、召集、その勢、都合、四万余、諸兵、て、

小田原山
津守形に
城の川西小
田原山
小田原山

彼中の國、峯崎、ある、相山に、出張を、大守、右馬頭、輝元、の、安藝、用、防、長、門、の
軍勢、四万余、諸兵、に、進、養、み、相山より、三里、隔て、後、菟山に、出陣、ある
然も、秀長、預て、これらの、分、撥せ、る、只、城、攻、を、為、さ、る、と、候、と、見、て、所
くに、多く、荒、揚、る、由、也、水、愈、増、て、城、中、方、僅、ハ、水、の、深、さ、と、七、八、餘、今、日、ハ
昨日、に、水、練、場、り、翌、日、ハ、今日、より、深、く、な、れ、バ、遠、城、遠、水、底、小、沈、ミ、老、少、男
女、盡、く、魚、鱉、の、餌、み、り、ぬ、んと、悲、嘆、の、ま、ま、と、多、り、候、大、將、清、水、長、景、當、つ
恭、び、水、練、の、者、小、令、じ、右、川、元、長、の、陣、小、遣、し、城、中、の、相、兵、を、告、る、に、て、
元、長、隆、景、高、城、して、み、ま、と、を、現、を、改、頼、し、城、兵、救、ひ、出、さ、ん、と、い、は、し、
子、更、を、回、ら、し、つ、隆、景、諸、將、小、向、ふ、く、東、を、く、自、方、り、と、小、勢、を、も、り、て、日、知、の
城、一、段、て、出、な、バ、款、ハ、自、方、の、小、勢、を、侮、り、出、軍、せ、ん、と、必、定、り、其、胸、乃、郎、自
勢、を、率、て、形、付、本、が、旗、本、一、段、く、蒐、ら、ん、元、長、隆、景、元、長、の、友、人、ハ、雲、伯、二、川

の勢を率て。況に蒐りて。破類を。捕虜。孫元業に。一千餘人の勢を
授け。日如の背方に廻りて。自方の小勢を。幫助せし人。影を。死に。款
を。款に出さん。と。大地を。播種する。と。高橋一決。と。その。准備を。せ
しむる。けり。

桂氏於智勇扼生石謀叛馬安云乞部

吳猶水に畫て道を見。勢。高赤離に。来て。江河を。走る。形あり。とも。ある
る。松の。城を。遁る。の。方便。あり。人。也。然。とも。我。膝。勇。牌。の。清水。宗。治。と。こ
も。聽。る。氣。色。なく。鉄。石。不。比。して。宰。城。せり。然。る。も。大。將。秀。吉。の。回。者。を。り。て
窺。る。ふ。元。春。隆。景。分。權。して。日。如。の。城。を。取。返。す。る。ふ。の。准。備。を。し。ける
よ。若。たり。の。を。流。石。守。喜。收。ま。る。と。限。り。あり。款。を。用。ひ。て。款。を。設計
儀。成。り。ぬ。と。既。す。れ。り。亦。も。遠。事。ハ。い。る。る。方。形。を。と。得。る。ふ。若。橋。此。處

加茂の河
川本を在

當りて。加茂の。墨。河。と。い。ふ。城。あり。加。茂。の。河。の。本。丸。に。毛。利。の。功。臣。桂。氏。於
廣。重。嫡。子。大。藏。重。成。二。男。孫。七。郎。重。勝。を。守。り。西。の。丸。に。上。山。兵。庫。元
忠。東。の。丸。に。大。生。石。中。務。友。秋。之。方。通。子。相。繼。り。て。其。勢。之。十。七。百。餘。騎。あり。
中。に。統。て。生。石。中。務。友。秋。ハ。秀。吉。當。國。征。伐。せ。し。め。り。智。謀。施。倫。に。て。
款。を。る。案。ハ。金。碑。を。し。て。頃。々。族。の。業。を。る。の。利。慾。に。迷。ひ。威。を。恐。む。て。遂。に
降。参。の。意。を。生。じ。る。者。波。牟。人。の。居。の。縁。に。便。り。て。秀。吉。の。方。に。口。愈。し。ける。
流。石。守。も。願。て。り。謀。計。を。り。つ。て。謀。合。今。明日。が。その。ち。よ。ふ。彼。前。勢。を
攻。蒐。ら。せ。む。忠。節。を。抽。ら。る。べ。し。也。骨。あり。ふ。お。い。つ。る。復。貴。より。く。料理
と。んと。重。遣。し。る。を。生。石。友。秋。大。に。款。び。い。ろ。く。思。慮。を。想。じ。ける。か
一。意。本。丸。の。虚。實。を。試。人。と。し。け。り。起。出。後。の。物。更。を。る。頃。城。中。彼
此。と。視。遠。る。ふ。本。丸。に。桂。廣。重。内。外。と。り。も。制。制。さ。く。板。人。嚴。重。を。成

又く、備の廣重いふくしてや。我内急を悟りしものぞ。急事をなくむ
 ふうり。おの意と自己がむ。魔をれ。騰たふく。柱て返く。駿率に命じて
 糸の丸に。柵と結せ。床垣を編せけふふ。柱が兵をさるを。急をさる人へ
 通たり。廣重初に。潜り視ま。聆く。小遠く。柵床垣を。城外一向に。柱へ
 むして。本丸の方へ。結鏡せ。あそ。奇怪なれ。こ。是。流率より。びとて。奉丸
 にも。亦。敵く。防索の。准備を。せ。せ。生石の。柱が。所為を。知。其。飲
 け。く。後。前。勢。一。月。通。し。自。勢。を。連。隊。て。曉。る。成。中。ち。黎明。時。の。報。る。頃
 生石の。軍。勢。一。子。餘。人。喊。せ。ゆ。と。鼓。叫。たり。これ。を。暗。号。に。後。前。勢。を
 誘。の。城。へ。推。進。す。然。も。柱。廣。重。へ。預。く。期。した。る。事。な。れ。此。も。後。前。勢
 里。通。つ。く。在。り。ける。後。前。勢。の。舊。地。の。城。へ。至。投。西。の。丸。を。柵。圍。一。時。攻。む
 人と。接。り。たる。大。將。上。山。兵。庫。也。不。意。を。敵。ま。く。警。た。り。も。守。方。く

せ。警。く。出。り。矢。銃。を。威。び。拒。抗。する。由。急。た。右。る。破。る。こと。あ。さ。る。備
 亦。生。石。の。後。前。勢。を。後。背。ふ。む。く。え。る。色。に。あ。る。は。下。駿。進。人。で。一。途。に。本。丸
 せ。攻。陥。さ。ん。と。民。部。廣。重。を。こ。も。怯。ま。ず。有。統。禦。衆。を。擊。殺。す。一。處。を。視
 量。突。後。人。と。片。津。を。吞。む。竊。ふ。たり。此。胸。元。春。隆。系。へ。廟。山。に。在。陣。して。遠。令
 我。を。睨。と。視。る。より。よ。た。事。を。出。來。る。れ。目。下。是。誘。の。合。我。獲。り。自。方。彼
 不。へ。援。兵。せ。他。軍。も。定。で。救。を。出。さ。ん。日。知。の。城。を。攻。む。より。遙。小。遠。軍。率
 あり。たる。と。而。地。元。長。元。信。に。一。千。餘。騎。を。跟。從。せ。加。藤。の。援。兵。に。出。さ。る。
 元。春。隆。景。友。將。へ。秀。右。衛。門。中。將。一。眼。を。属。て。今。に。も。愛。勅。ある。もの。あ。る。ふ。
 備。勢。を。一。度。の。探。出。さ。ん。と。分。撥。して。待。蒐。たり。然。る。も。加。藤。の。城。中。に。柱
 廣。重。旗。の。懸。る。目。も。離。さ。ず。雲。時。祝。儀。を。在。たり。しが。東。水。の。風。吹。掃。し
 て。忽。地。南。を。吹。却。し。旗。當。標。の。悉。く。敵。の。方。へ。靡。さ。り。た。れ。ば。時。よ。暮。る。と。諸



豊臣五條巻之六



桂民部父子の
智勇よく加茂の
城を持堪る

豊臣五條巻之六

兵に指揮し、火矢をりつゝ東の丸に散々に射菟り。東の丸は家保接
 へ、火葉雷なりたる由名。並地は火接り、酔くと。燃奉らんとなしける時
 生石左秋、慌忙に馳率に命じて火城崩さしむ。それとるより、平丸は桂
 三男、徳七、希、香、統をりて火城の馳率を二人一吐し、撃手損を。あき小怖れ
 其餘の秩平、多敷に逃下る由名。頭頭つり、城小なりて、株一度、燃
 奉里餘、突進兵の方に吹着。面を向さず、やうも。得しる、燃と、民、赤、度
 重、極、浪の勇士三百餘人、風、推、用ひ、突、出、る。四角八面に斬て、廻、き
 べ、この、驍、猛に、備、不、勢、む、の、愈、猛、に、搦、れ、ども、火、氣、小、咽、び、て、射、殺、し、め、さ、く。
 外廓より逃出と。上、山、倉、庫、これ、を、着、て。と、大、廣、重、力、城、勅、せ、逃、殺、せ、よ、と、三
 百餘騎、鎗、節、回、は、り、て、征、出、さ、る。生、石、希、後、に、款、せ、ぬ、と、進、退、こ、に、極、る、と
 記。桂、氏、於、こ、を、を、征、す。情、さ、生、石、が、奉、じ、よ、か。お、の、色、逆、城、お、も、い、志、さ、や、と、餘

推把て、搦菟る。お秋をどろ、廣重に及ぶ。お秋の令をり、我、不、降、も、る、馬
 より下へ、搦、壁、さ、り、て、城、嫡、子、大、藏、紅、傍、て、懸、さ、る。首、を、段、落、せ、り。遠、勢、威
 以、力、を、得、く、進、兵、を、轟、く、と、逃、出、し、門、を、必、合、と、聞、く、の、ち、東、の、丸、に、極、大、を
 法、城、要、時、の、息、を、探、め、り、利、兵、方、の、陣、小、い、墨、傍、の、城、に、火、の、勢、を、着、く
 改、菟、ら、ん、と、お、粉、を、脚、踏、鳴、り、て、等、と、い、ども、大、指、の、指、揮、め、り、さ、れ、を
 自、方、に、彼、を、着、る、も、段、て、出、る、と、何、と、い、ふ、秀、吉、板、意、と、出、戦、せ、ぬ、拵、を、し
 先、隊、に、勢、を、陣、前、に、進、ま、せ、合、旗、を、持、て、を、さ、る。由、名、進、出、て、出、戦、を、各、分、か、く、と
 勅、搦、起、て、見、え、た、れ、元、意、元、信、一、子、餘、騎、に、く、加、後、の、城、上、り、四、五、町、隔、り、
 敵、亦、秀、吉、一、戦、小、勝、負、を、決、せ、ん、と、競、ひ、は、る。廂、山、よ、い、大、將、や、を、是、秀、吉、自
 方、の、援、兵、一、子、を、り、此、小、勢、なり、と、侮、り、て、出、馬、せ、よ、か、一、待、四、城、や、遠、一、戦
 は、是、に、も、非、少、も、あ、家、の、存、亡、を、決、せ、ん、と、桂、が、鼻、の、款、陣、を、目、も、離、さ、る

以視獲之在上方勢のいよく駿之加茂の城に兵士といひ援之の勢も僅か
 れば遠勢威に攻成バ加茂の城を得るの事なれば援之れ敵をも敗授らん
 子河指揮いふいそと名頼をもて大將一類小折しりしる少考中
 村平次急井成義方を遣遣す小旗のいりく自方を招ぎ退陣の令
 を傳へける由急諸勢もこれに終るるなく食本陣へ退来る秀右諸將若
 て曰我今敗費するものなり毛利を川小早川海而志を一つて十死一生の
 命戦るゝ其虚をとりて四方の去地を破類三人の謀計なりける由急
 に故意と秀右の針織を設けく敵の銳氣を疲りたるなり此已後と
 ても吾指揮なくんば使して出戦さるるべし堅く自方を制しりたり然るに
 川小早川の八万餘人の将率一齊今日もその大合戦に上方勢の目を駭し肝
 を冷して懲りりんとす松丹引て侍とすども相討合奇を以て欺れ流し討

陣まるとはよく謀に功なりたりと示於て筑前も毛利の援を大軍を
 是に駒馬を馳て安去境へ將軍亦出馬あるを知らり所帖捧ふ信長も是を
 恥しめされ所帖を聞かせ憤りむる其文小曰
 慎而捧飛擲奉訴候今度雖攻備中高松城其地
 理全堅固而武勇智謀之士數多籠居容易落城
 難成因此致水攻候畢陷落既不可出一旬之内
 然處毛利右馬頭輝元為後詰率數万騎令出陣
 可救高松城方術候悌御勢聊於有合力者以其
 勢令圍高松指向小臣勢以遂合戰即時追崩三
 家中國西國悉當年中可令屬幕下事乍憚所在
 小臣方寸也此旨宜預御披露候恐惶謹言

判柴筑前守秀吉

天正十年五月十八日

管谷九右衛門殿

聆しめられて信長公大に驚くせむ。早速諸老長らびに國内之諸將小命令を下しめ。早く自國へ歸て軍兵細度り次第。中國へ馳下り。秀吉小力成勅さす。嚴小命令せしむられ。諸將より是も領吏して各々國へ歸しける。

先秀再練君遂結二謀叛根馬蘭丸産起

自己忠を竭して他人の自己に忠を以て恨むべし。我腹を傾け。信肝を盡したる賢者なり。茲に希有なる事出来る。右大臣信長公過法。三月甲州或

田征代の事かえり。河内路小東海道を所登り。最上山等北名不せり。まぐ河内流あり。安去に河内城まぐける。然るに河内軍の加儀とて。諸侯を剛懲さす。是に依て先秀も先達て甲府におひて。痛懲せられ。願志も解若を恨まぬ。まぬらざるを懐回せを物種と。獨心を革慎し。密意司の役を奉領。右大臣にも遠遣。抜群に流るるをむす。命屠られ。亦れが。百端謀略。ふい做中。と。系約の珍味。場。の義。因。名。若。亦。不。を。征。哀。れ。准。備。美。く。相。待。ける。然。わ。不。備。邦。の。大。名。五。月。十。一。日。を。り。つ。て。安。去。大。寶。院。一。集。り。色。く。り。密。意。司。光。秀。侍。被。け。り。傳。ひ。れ。に。被。拜。て。純。是。を。し。出。入。起。坐。り。供。饌。勅。置。候。る。限。を。密。意。し。る。が。五。月。十。六。日。右。大。臣。亦。旅。亭。に。入。ら。せ。ら。れ。り。命。を。奪。走。走。り。と。り。し。を。信。長。親。院。中。の。結。核。は。模。倣。せ。河。内。流。あり。不。令。銀。珠。を。



光秀
 郷應司
 命せられ
 大寶院を
 粧廉す



を責つたる事。幾千萬の難人をあつた。恰も耳目試駭をり。了得に猶着
 の信長公も。分外の偉におがしめ。心中不快を懐くを身。城へ歸らせりひけ
 るが。其後密意司を。惟任長秀が命せり。先秀をりて除れり。日向守の
 怪し。何可憐にやとおひり。信長先秀を叱出され。尋常あつた。其
 志。遠道汝も密意司を命せり。法外なる神。あつた。味略あつた
 中。命せり。東西六分。加減あり。大寶院中の盃盤飲食。過分と
 しても。愚頑なり。備勅使を。下向あり。遠上り。密意や。諸國の
 武家に。懇志を。通し。特赦を。授け。後日の力。ふる。んが。今更。予。成。成。成
 して。法。外。なる。情。懐。さ。と。空。く。何。れ。先。秀。の。最。恨。め。け。し。面。を。愛。し。新
 へ。公。外。なる。上。意。よ。こと。己。に。若。し。味。略。ひ。れ。中。純。気。せ。し。命。せ。り。と。さ。ら。ふ
 いらり。や。御。客。人。の。推。し。も。せ。し。先。秀。君。の。命。ふ。り。て。密。意。い。と。と。さ。ら。ふ

此れを。け。し。身。を。さ。ふ。小。費。悩。山。折。の。津。に。珍。奇。を。辨。達。主。徒。幸。若。法。か。り。り。
 斯。ま。で。結。核。い。と。と。處。に。昨日。所。設。を。除。れ。り。何。等。の。所。意。に。慥。え。ぬ。よ。と。慎
 在。た。る。不。然。い。り。て。過。分。なり。との。設。意。を。被。り。所。替。に。何。が。る。事。思。ひ。餘
 る。眞。惑。なり。幸。勞。なり。との。所。獲。洞。も。何。づ。め。ん。と。さ。ら。ふ。却。て。客。の
 密。意。を。通。し。英。む。も。あ。ん。との。所。疑。を。思。ひ。か。う。思。遠。所。嫉。に。似。し。る。あ。つ
 る。身。不。屑。ふ。い。と。も。先。秀。が。長。道。に。い。り。他。門。の。扶。助。を。姑。時。と。せ。む。
 何。ぞ。遠。方。の。客。に。偏。ひ。密。意。を。倚。ま。る。れ。鄙。怯。を。做。ん。や。賢。慮。ふ。遠。ひ。け。た
 と。細。を。放。つ。と。東。く。り。る。を。刺。尚。え。不。快。胸。を。ふ。斯。終。を。聆。より。右。大。臣。怒
 頭。上。小。奮。費。して。額。を。堅。服。を。皆。張。お。の。是。先。秀。慮。外。の。情。言。信。長。を。そ
 て。小。兒。と。さ。る。う。遭。て。我。意。を。恣。り。細。を。さ。し。福。懐。さ。よ。居。る。禮。を。重。じ
 る。を。張。を。快。謝。さ。す。と。ふ。を。飽。ま。を。辱。し。め。お。の。是。が。意。を。り。て。達。人。と。さ。る。條



右大臣殿
光秀の諫を
怒りて
蘭丸を
打擲
せむ

不忠とや謂まん不義とや謂まん。然まを公道を獨言をも。是を以て持てゐる
 以て忍ぶ予が家人とありはるぞ。主の威をりて小款は勝一を自己が長勇を
 と懐たるを七喚しつれ。之はつぐも教度の聽懐。増え權極士が舌に根よ
 か予が子を却をも穢らつ。これ庵從軍奴が醒顔。おてくおまよと敷團玉
 つも庵從軍人起。菟も七猶勝しける。我信長なやも聲暴らひ。命を宵くひ
 不忠あるぞと頻に所指揮ゆつるにぞ。赤蘭丸體と突起。尺二の鐵扇
 振りはれ。上意ありと呼たりつ。日向守が顔の臂面。勅く放至とおられ。力
 丸房丸。菟丸も矯て一度に起菟り。散く打擲ひ。中は枕く蘭丸。正
 年廿二歳。少て。傑氣壯強の力を。鐵杖不似する。扇をもその力の信ふ。お
 極なる内息。光秀が額。忽地やぶさく。鮮血混くと流。是出。素袍を流。次衣振。意。
 盧紅小深。たるふぞ。腹懐か。あま涯。里るく。斬頭。みさんとおり。ども刃刀。ハ垂

のまに刺さたまは。詮うさかくて流。涙を。萬と驟断て。在たり。なる。右大臣
 にも驚く。割の事とやおが。らん。庵從軍を制止ら。日向守に。響とせ
 めい。汝が。後。他人。命。トて。今。用。ひ。た。光。秀。な。れ。を。以。滅。し。止。里。在。ら。ん。り。
 坂中。に。立。歸。り。藝。居。と。と。命。属。ら。る。日。向。守。ハ。舞。懐。の。胸。裂。る。程。思。へ
 ぶ。も。為。べ。さ。や。う。か。く。素。行。と。と。館。の。内。を。逃。出。し。最。怒。り。け。小。所。願。と。坂。中。城
 一。を。隔。り。ける。時。に。蘭。丸。濟。前。小。村。に。今。光。秀。が。氣。色。を。犯。る。ふ。必。定。謀。叛。と。い
 れ。神。あり。小。長。命。を。奉。領。と。い。登。く。殊。戦。法。を。ら。ん。と。勅。言。を。錢。右。大臣
 鞭。く。と。笑。も。せ。め。い。柴。双。い。か。ど。孺。子。も。余。予。が。威。勢。に。餘。光。を。堪。難。く。進。退
 せ。る。ふ。航。舟。と。い。る。を。誰。を。殺。す。ふ。及。ぶ。る。力。の。い。せ。り。も。さ。き。繼。令。送。を。あ。る。ふ
 も。せ。る。渠。に。與。力。と。い。る。事。の。外。は。あ。る。さ。き。中。う。も。さ。し。再。置。べ。と。室。入。で。蘭。丸。振
 て。言。状。と。う。く。其。令。せ。し。め。い。た。も。謀。叛。の。事。ハ。虚。を。疑。ひ。仇。せ。ん。と。い。を。存。し。は。是

不時の愛私科とす。早く除をせんとんば。あつて天過を連起し人と再三
 練めまわす。せしめども。信長更に用ひむとん。練言ことりか。中國の馬
 近よふの事。事起しんと。然る處。我亦別ふ。之更に。して染を自
 然に殺死しんと。其後。ふして。國を。織田家。運の盡ぬ。此之後。あむひ
 織らまざる。

別て。説遠。蘭丸の。先年。中。依山。に。我死せ。衆之。左。門。可成。の。二。男。小
 して。森。勝。義。の。弟。なり。又。之。左。門。の。江。州。志。賀。郡。を。領。し。たり。し。我。死。の
 後。ハ。勝。義。蘭。丸。共。幼。稚。なり。され。不。領。の。地。を。見。明。智。先。秀。に。賜。す
 なる。然る。小。蘭。丸。生。得。才。智。に。長。し。一。言。義。が。年。なり。なる。由。急。内。府。深。く
 寵。愛。し。む。ひ。成長。を。莫。大。の。不。領。を。賜。する。お。り。し。く。ふ。く。お。ん。した。る。が。
 蘭丸。此。歳。二十。二。才。なり。ける。由。急。先。達。て。甲。州。退。治。の。機。會。衆。足。牙。勝。義。の
 蘭丸。

其中。濃。明。岩。村。五。方。科。の。地。を。賜。り。漸。く。大。身。に。せ。し。む。る。也。學。記。恩。惠。を。被
 する。お。り。し。く。ふ。く。お。ん。した。る。が。此。の。過。給。る。緯。多。し。右。府。蘭。丸。を。愛。し
 ぬ。の。海。あり。以。致。く。の。珍。寶。を。安。排。す。遠。中。を。以。ま。れ。欲。き。是。品。の。あ。る
 あり。バ。撰。取。れ。し。の。命。せ。ふ。蘭。丸。小。臣。者。く。珍。寶。珠。玉。欲。し。き。之。の
 と。て。さ。ふ。ら。む。と。善。する。致。右。府。弟。を。や。む。ひ。外。に。あ。ふ。る。不。領。の。地
 や。と。遠。駒。蘭。丸。謹。で。臣。が。亡。父。三。左。衛。門。ハ。江。州。志。賀。郡。を。賜。り。た。ま。は。し。小
 臣。も。亦。彼。地。を。く。出。生。し。せ。し。父。の。舊。領。最。多。し。く。ひ。と。は。後。小
 今。ハ。先。秀。の。所。領。と。な。れ。り。怖。ハ。君。恩。の。厚。に。急。に。父。の。所。領。地。相
 續。は。ら。す。り。た。ま。の。外。更。に。を。い。は。ら。す。べ。と。思。徹。て。重。し。ける。信。長
 不。便。に。お。が。め。され。然。こ。を。い。は。く。二。三。年。が。た。の。う。ち。お。い。は。汝。を。皇
 此。任。を。廢。し。と。命。せ。し。れ。我。臣。の。廳。に。連。致。師。紹。已。が。所。在。し。り

一が洞の次取に光秀へ菊丸の情結代結々々ふを光秀略てふ
驚き安けぬ事におりひらるるふを謀叛の獨り結びぬ

繪本豊長勲功記五編卷之六終

